

## 編集後記

▽文学論叢七十輯、本年度第一号ができました。

▽文学会と活動を共にされてきた中村喜夫先生が、六月十八日逝去されました。大学生活の日々、命あるものへの無差別のいとおしみと非人間的なものに対する峻拒の姿勢から、何度、励ましをうけたことでしょうか。教育や平和をめぐる問題に、「繊細の精神」において、凛として対されていた先生をおしのびするにつけ、それがもどらぬものとなった今、哀惜の念やむべくもありません。先生、安らかにねむりください。

▽核兵器廃絶にむけて発言する人々の動きは、自らの営為に「地球の重み」を感じしはじめた科学者、芸術家をはじめ、市民のひとりひとりが参加して、六月に開かれた第二回国連軍縮特別総会にむけて大きなうねりを生み出しました。「地球上には現在、くり返し何度も殺戮するに足る核兵器が蓄えられ……：限定戦争はあり得ない……：すべての国家、人

種、社会体制の違い、あらゆる思想信条の相違をこえて、核廃絶をめざし、この新たな軍拡競争をただちに中止せよ、と各国の指導者、責任者に求める。同時に非核三原則の厳守を日本政府に要求する。……この地球上のすべての人にむかつて、ただちに平和のために行動するよう訴えます。決して断念することなく、いっそう力をこめて。」と今年一月二十日、日本の文学者は訴えています。(下)

昭和五十七年七月十五日印刷  
昭和五十七年七月二十日発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 牧野由朗

豊橋市町畑町

印刷所 キリスト教印刷株式会社

豊橋市町畑町

発行所 愛知大学文学會

振替名古屋三―四五六五四